

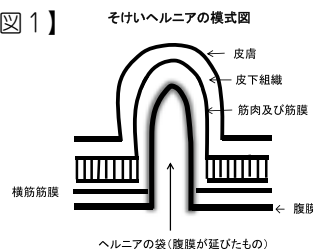


「そけいヘルニア」(通称：脱腸)の治療法
～患者負担を軽減する手術治療へ～

●**そけいヘルニアの手術事情**●

そけいヘルニア(【図1】)は、昔からある外科疾患で、今では世界中で年間約2千万例の手術が行われています。当院では、平成24年度から局所麻酔で行う1泊2日の手術治療を始めています。この手術は、手術当日に入院し、手術室にいる時間も短く、手術後はすぐに食事ができ、歩いてトイレにも行けます。まれに手術中に不快感を覚えることがありますが、その場合は気分を落ち着かせる薬を注射するなどして対処します。当院では、現在までにこの手術を72件行っています。

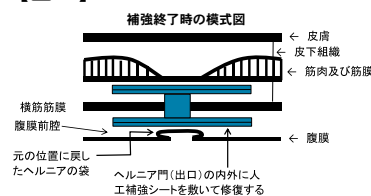
【図1】



●**手術の方法**●

手術は、皮膚・筋膜を切ってヘルニアの袋を見つけ、これを元の位置に戻した後、横筋筋膜という組織の上と下に人工補強シートを敷く方法(【図2】)が主です。この場合、腹膜前腔という場所を広い範囲で剥がすため、ワーファリンやバイアスピリンなど“血液さらさら”のための薬はお休みした上で行うという制限がありました。しかし、男性で大腿ヘルニアを伴っていない場合には、腹膜前腔を剥がさず横筋筋膜の上だけにシートを敷く方法で手術すれば、これらの薬の内服もお休みすることなく治療が可能ということが分かりました。※この方法は、大人の男性の片側だけのそけいヘルニアに対し、ヨーロッパで最も行われている手術法です。

【図2】



●**安心してコストの安い手術方法が整備されつつあります**●

現在、日本でも「ヘルニア診療のガイドライン」(最適な治療法を学会などで話し合って決めたもの)が整備されつつありますが、いずれの方法で手術した場合にも正しい解剖の知識に基づいたテクニックが必要です。※腹腔鏡でおなかの内側から行う方法もありますが、全身麻酔が必要で、簡単とはいえず、費用が高額になります。ただし再発を繰り返す時には有効な方法です。

外科医は、簡単で安全、コストが安い理想的な「そけいヘルニア」の手術方法の完成に向かい、将来にわたって日々科学していく責任があると痛感しています。

そけい部の腫れが気になり、ゴルフのプレーに変調を来したりカラオケで熱唱できずにいる方…治療をして、エージシュートやのど自慢チャンピオンを目指し人生を謳歌されてはいかがでしょうか。



外科科長 小栗 裕(外科専門医・麻酔科標榜医)

健診室からお知らせ

人間ドックの追加検査(オプション)をご紹介します。人間ドック申し込み時に併せて申し込みください。

【胃内視鏡検査】(費用：2,100円)

胃内視鏡(胃カメラ)検査は、ビデオカメラと同じように胃の内部の状態をカラーモニターで観察できるため、より詳しい観察を行うことができます。そのため、直接、食道・胃・十二指腸の粘膜面の微妙な色や凹凸が観察でき、ポリープや潰瘍のほか、早期がんの発見にとっても有効です。

●**問い合わせ** 村立東海病院健診室直通(☎282-2614)

問い合わせ ■村立東海病院(☎282-2188)、保健年金課地域医療担当(☎287-0899)